

## 教材・支援機器活用実践事例

	実施年度	H 2 8 年度	
授業について	教科名等	製作活動、読書、朝の身辺整理等	
	単元・題材名		
	かかわりにおける教師のねらい	設定された活動において、集中しやすい状況を作ることで、活動に対してのねらいを達成したり、集中力の向上を図ったりできる。	
	かかわりにおける子どもの目標	集中して取り組む姿	
子どもについて	学級・学校・学年	幼稚園	
	対象の障がい (種別・診断名等)	○組全体	
	授業形態	集団	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	友だちとかかあったり、意欲的に物とかかあったりする力が育っているクラスである。ただ、場合によって、やるべき活動に対して、他のことが気になって集中できないこともある。	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	「ついたて」 (間仕切り)	
	活用のねらい	<p>○活動に応じて、集中して欲しい場所に意識や意欲が向くように間仕切りを移動し、園児たちが取り組みやすい状況を作る。</p> <p>○取り組みやすい状況を作ることで、活動そのものへ集中する力を養うことをねらう。</p>	
授業における支援 ・教材の配慮事項		<p>○一人一人の園児の活動への取組状況に応じて、グループ、個別等に配慮しながら取り組む。</p> <p>○集中できる集団に育ってきたら、小学校での学びの連続を意識し、少しずつ支援を減らすようにする。</p> <p>○牛乳パックを使って、作成する。そうすることで、軽量化、移動が簡単にできる。</p>	
子どもの変容や評価		<p>○A君に絵本を読み聞かせている時に、他のことが気になる様子を見て、この環境じゃないと感じました。その後、読み聞かせる場所や間仕切りをうまく活用することで、少しずつ集中して取り組むことができるようになりました。</p> <p>○クラス全体でも、集中して取り組む力が育まれているので、少しずつ使用しなくても活動できる状況になってきている。</p>	